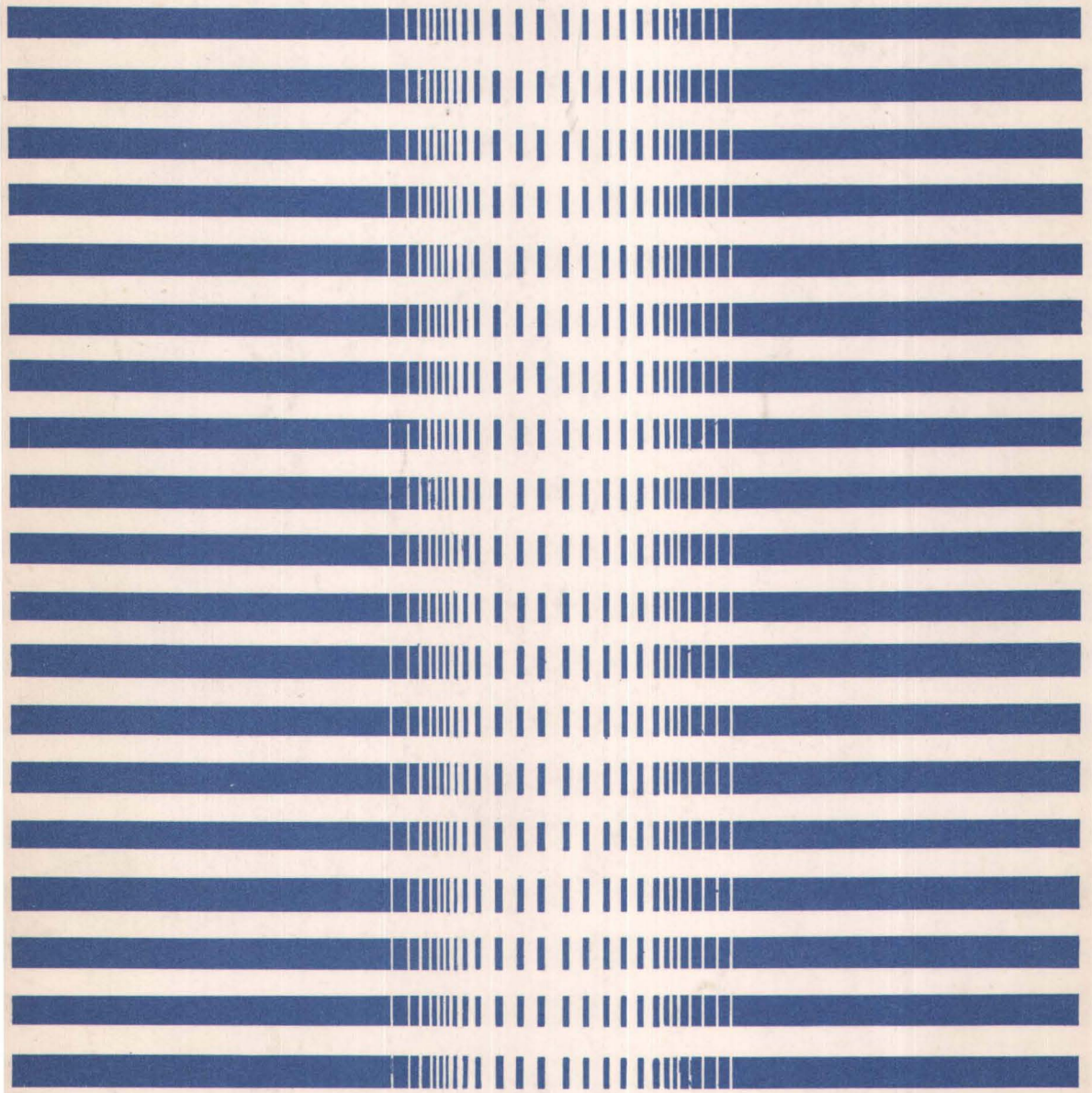
# 神経化学

日本神経化学会事務局報

〔3〕



昭和47年 9 月

# 第15回 日本神経化学会

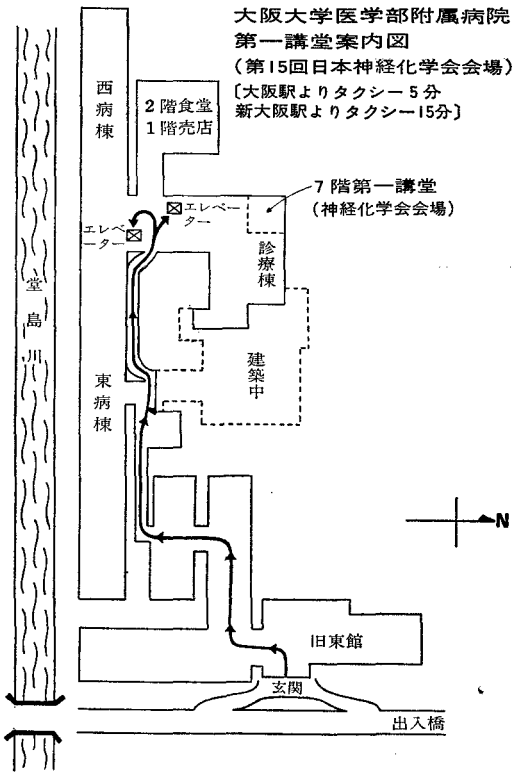
## プログラム

<世話人代表> 中 嶋 照 夫

<日 時> 昭和47年11月1日(水)・2日(木)
午前9時より

<会 場> 大阪大学医学部附属病院第1講堂

<会場案内図>




1. **抄録集**：ご希望の方は10月7日までに事務局までお申し込みください。できあがりしだいお送りします。代金は学会会員は1人1冊まで1,000円，会員外の方は1,200円です。
2. **参加費**：会員でない方でも当日会場で参加費500円を納めれば参加できますが，なるべく本年度会費1,500円を払いこんで入会してくださるようお願いします（この場合は抄録集が1,000円となります)。
3. **演者の方々にお願い**
   a）**口演時間は各10分，討論時間は各10分**です。各自**口演時間を厳守**してください。
   b）スライドは35mm版のものに統一してください。**幻燈機は1台のみ用意します。なるべくスライドの数を少なくし抄録集の図や表を用いて口演してください。**

## 前 夜 祭

**と き**： 昭和47年10月31日（火）午後5時～8時
**ところ**： 大阪大学附属病院講堂（診療棟7階）

**精神神経疾患と神経化学** **司会** 須田正己（阪大・蛋白研）
高橋 良（長崎大・医・精神）

1．精神神経疾患への生化学的アプローチ……佐野 勇（阪大・医・高次研）
2．情動と生体リズムと記憶……台 弘（東大・医・精神）
3．神経化学から臨床精神薬理学へ……谷向 弘（阪大・医・精神）
4．応用神経化学……塚田裕三（慶大・医・生理）

## 第 1 日　11 月 1 日（水）

**口演時間10分・討論時間10分**

**9：00～10：40**

1．ドーパ脱炭酸酵素阻害剤 RO4-4602 によるアミノ酸尿
……田中千賀子・大隅義継・堀井郁夫・高折修二（京大・医・薬理）

2．血清トリプトファン水準の脳各部位のトリプトファン及び5HT 濃度アミノ酸バランスに及ぼす影響
……渡辺昌祐・中島良彦・河野沢与・江原　嵩・井口欽也・田口冠蔵・大月三郎（岡大・医・精神）

3．断眠後睡眠時のラット脳内 $^{3}$H-Tryptophan 代謝……渋谷治男・融　道男・島薗安雄（東医歯大・医・神経）

4．アミンプレカーサー投与による猿脳内アミン代謝の研究…岸本英爾・永井克子・塚田裕三（慶大・医・生理）

5．Dopamine β-Hydroxylase 阻害と脳内アミン ……日高弘義（愛知県コロニー）

——休　　憩（10分）——

**10：50～12：10**

6．化学伝達物質受容部位に関する研究，その1 Acetylcholine 及びその近縁物質による大脳シナプス膜のコンフォーメーション変化……関谷　真・菊野正隆（上智大・理工・生化）

7．向精神薬の神経終末顆粒への特異的結合の様式について……石谷良一（千大・薬・微生物薬品化学）

8．ラット脳の AMP Deaminase の活性調節について
……小笠原信明・渡辺智正・後藤治子（愛知県コロニー）吉野昌孝（名大・医・Ⅱ生化）

9．脳 $Na^{+}$・$Ka^{+}$-ATPase に対する α-Tocopherol の効果
……川井紘一・原　諭吉・中尾　真（東医歯大・医・生化）

**12：10～13：10**　　——昼　　食（理事会）——

**13：10～14：50**

10．発育に伴うラット大脳 DNA 分解酵素の変動について……野口鉄也・須田治彦・塚田裕三（慶大・医・生理）

11．発育に伴うラット大脳 DNA 依存性 DNA 合成酵素の変動について
……須田治彦・野口鉄也・塚田裕三（慶大・医・生理）

12．発育期ラット脳のチミジンヌクレオチドと DNA 代謝に及ぼす甲状腺摘除の影響
……山上　栄・切池信夫・川北幸男（阪市大・医・神経精神）

13．MAM 投与によるラット胎仔脳内 Lysosomal Enzymes の変動
……松谷天星丸・塚田裕三（脳麻研・生化）松山春郎・高屋豪瑩（脳麻研・病理）

14．分離ニューロンおよびグリア細胞群の発育段階における生化学的研究
……永田　豊・御子柴克彦・塚田裕三（慶大・医・生理）

——休　　憩（10分）——

**15：00～16：55**

15．脳の Acetylcholinesterase Isozyme について…小林清史・森　昭胤・高坂睦年（岡大・医・脳研・病生化）

16．培養神経組織でのミエリン形成と 2′, 3′-Cyclic Nucleotide 3′-Phosphohydrolase (CNP) 活性
……塚田裕三・渋谷万里子（慶大・医・生理）小川恵弘（脳麻研・病理）

17．2′, 3′-Cyclic Nucleotide 3′-Phosphohydrolase の pH stat および比色による測定法
……栗原　正・高橋康夫（新大・脳研・神経薬理）

18．発育期の実験的高フェニールアラニン血症と〔$^{35}$S〕Sulfate の脳組織 Sulfatide への Incorporation について……戸張千年・植村慶一・平野修助（東邦大・医・Ⅱ生理）

19. 実験的 Anoxia に於ける脳蛋白合成並びに脳内遊離アミノ酸パターン
……高田五郎・多田啓也（阪市大・医・小児）
20. ウロカネース欠乏症 (Urocanase Deficiency) （5分）
……吉田稔男・荒川雅男（東北大・医・小児）多田啓也（阪市大・医・小児）

## 第 2 日　11 月 2 日（木）

**9：00～10：40**

21. ヒト脳セレブロシドオキシ酸組成に関する 2, 3 の新しい知見
……河村成子・武富　保（信大・医・順応研・生化）
22. ハイプシン, $N^6$-(4-アミノ-2-ヒドロキシブチル)-2,6-ジアミノカプロン酸の発見
……中嶋照夫・今岡信夫・柿本泰男・佐野　勇（阪大・医・高次研）
23. 脳内のメチル化蛋白質……柿本泰男・三宅正治（阪大・医・高次研）
24. 脳のA１蛋白およびヒストンのメチル化酵素について……三宅正治（阪大・医・高次研）
25. モルモット脳の細胞核の酸性蛋白群について
……植村慶一・佐瀬厚子・平野修助（東邦大・医・Ⅱ生理）中山　毅（東邦大・医・Ⅱ外）

——休　憩（10分）——

**10：50～12：10**

26. 人脳 S-100 蛋白の分離，アミノ酸分析及び Radioimmunoassay について
……魚住　徹（阪大・医・脳外）Robert J. Ryan (Mayo Clinic)
27. Neurotuble Protein の Polymer と Colchicine の結合 ……新井孝夫・奥山典生（都立大・理・化）
28. 蛙の坐骨神経における軸索流—特に温度依存性について…阿部輝雄・芳賀達也・黒川正則（東大・医・脳研）
29. ラット坐骨神経系の *in vitro* におけるロイシン輸送 ……山口　仁・内藤利勝（昭和大・医・神経）

**12：10～13：30**　——昼　食（評議員会）——

**13：30～14：00**　——総　会——〔**議題**：1. 庶務会計報告 2. プログラム編成報告 3. 理事改選の件 4. 次期学会世話人および開催地の件 5. 第4回国際神経化学会の件報告 6. その他〕

**14：00～16：30**

30. 脳細胞膜の脱分極と Cyclic AMP の形成　Ⅱ：pulse-labeling 法と総 cAMP 定量との比較
……清水宏俊（日本ロシュ）岡山　博・田中正三（熊大・医・Ⅰ薬理）
31. 脳の Cyclic 3′,5′-Nucleotide Phosphodiesterase, V. Cyclic AMP と Cyclic GMP の水解とカルシウムの影響について……垣内史朗・山崎礼子・手島佳子（大阪府立中宮病院）
32. モルヒネの長期間連続投与時における脳内 Cyclic AMP 代謝の変動について
……内藤勝己・中川一夫・木村　宏・栗山欣弥（京府医大薬理）
33. ウシ脳からの 3′,5′-Cyclic AMP 依存性蛋白燐酸化酵素の精製と基質蛋白による活性化
……宮本英七（大阪府立中宮病院）P. Greengard (Yale 大学・薬理)
34. 中枢神経組織における Cyclic AMP 依存性蛋白質燐酸化酵素とその機能
……井上善英・山村博平・西山　馨・松村末夫・公文　明・西塚泰美（神大・医・Ⅱ生化）
35. 自律神経による肝 Phosphorylase 活性化の機序について
……嶋津　孝（阪大・医・解剖）天川　葵（園田学園女子大）

**総括討論**（30分）

## 神経解剖学　発生学的アプローチと機能

**The Human Nervous System**
**a developmental approach**

R. L. Holmes／J. A. Sharp 著
作田　勉　慶大精神神経科　訳

〔主要内容〕 中枢神経系の進化・神経系の形成とその構成細胞群・脊髄と脊髄神経―基礎構造・脳幹の発育・前脳の発達・中枢神経系への情報流入・運動系・小脳と網様体・脳神経・遠隔受容器―大脳辺縁系と視床下部・大脳両半球・髄膜と脳脊髄液・中枢神経系の電顕図・末梢神経系の電顕図

◍B5　頁136　図55　写真18　1972
¥2,700　〒140

## 筋病理アトラス

宇尾野公義　都立府中病院副院長
木下真男　東邦大助教授

〔主要内容〕 **骨格筋の構造と組織化学**　骨格筋の構造・骨格筋の組織化学（組織化学的手技　組織化学的正常所見）　**骨格筋の病理組織概説**　筋生検実施上の注意・病理学的診断の原則　**神経筋疾患の病理組織化学**　myopathy としての骨格筋の変化・neuropathy としての骨格筋の変化・神経筋終板の変化・筋紡錘の変化・運動ニューロン疾患・Werding-Hoffmann 病・Kugelberg-Welander 病・他

◍B5　頁148　写真73　原色図119　1972
¥8,500　〒200

## 筋収縮力学の実験　A. V. Hill 教授の歩んだ道

**First and Last Experiment in Muscle Mechanics**

A. V. Hill 著
若林　勲　東大名誉教授
真島英信　順大教授　訳

本書は，著者の生涯にわたる筋生理学の実験研究成果を，研究論文という硬い形式にとらわれることなく，“何故”“いかにして”ある結論に達したか，そのプロセスを語つたものである。

◍B5　頁156　図62　写真2　1972　¥4,200　〒140

## 中枢神経実験法

### 生化学編

編集＝塚田裕三（慶大教授）黒川正則（東大助教授）

B5　頁498　図138　写真45　原色図5　1966　¥6,500　〒200

### 生理学編

編集＝時実利彦（京大教授）大熊輝雄（鳥大教授）

B5　頁362　図181　写真38　1967　¥5,000　〒250

## 神経再生の生物学

### 神経成長とその因子

中沢恒幸（慶大講師）山元正昭（帝国臓器化学研）

A5　頁185　図57　写真17　1971　¥3,300　〒90

## 神経病理アトラス

編集＝神経病理学会

B5　頁295　図37　写真411　原色図6　1968　¥6,800　〒120

## 脳と意識的経験の統一

**The Brain and the Unity of Conscious Experience**

J. C. Eccles 著／松田幸次郎（前東大教授）監修
土居健郎（東大教授）吉田哲雄（都立松沢病院）共訳

新書判　頁69　写真1　1967　¥560　〒50

## シナプスの生理学

**The Physiology of Synapses**

J. C. Eccles 著／東大生理学第2講座　訳

B5　頁275　図152　写真8　1965　¥3,500　〒160

## 情動と情動障害　感情の生理学

**Emotions & Emotional Disorders**
**A Neurophysiological Study**

G. N. Loofbourrow 著
金子仁郎（阪大教授）松本和雄（阪大神経科）
角辻　豊（阪大神経科）　訳

B5　頁405　図116　1965　¥5,400　〒200

## 脳生理学

竹中繁雄（川崎医大教授）

B5　頁392　図130　写真11　1962　¥4,400　〒160

## 脳の生化学

編集＝塚田裕三（慶大教授）

B5　頁823　図312　写真42　1964　¥8,000　〒150

## 脳の生理学

### 生理学大系第5巻

編集＝時実利彦（京大教授）

B5　頁1160　図530　写真58　1967　¥13,000　〒200

## 運動系の生理学

### 生理学大系第7巻

編集＝藤森聞一（北大教授）

B5　頁828　図413　写真38　1966　¥9,000　〒200

医学書院　113-91　東京・文京・本郷 5-29-11　☎東京 (03) 811-1101　振替東京 96693　7209015 (H.N.)

## 1. NATO後援「Advanced Study Institute」をめぐる論争

1973年8月に，日本神経化学会理事長である塚田教授が会長となって，才4回国際神経化学会議（4 th International Meeting of the International Society for Neurochemistry．ＩＳＮ)が東京で開催されることになったことは多くの方々が御存知であると思う。このＩＳＮのメンバーであるイギリスの Open University，Brain Research Group の Rose 達が，今年9月に開かれる〝Proteins of the nervous system〟についての Advanced Study Institute がＮＡＴＯ（The North Atlantic Treatry Organization．北大西洋条約機構）から経済援助を受けていることに対して，Nature誌上（237，469(1972)）に問題提起をしている。これに対して今回の会長である St.Louis の B.W.Moore が，Nature 238，235（1972）に意見を述べている。この論争は各方面，特にＩＳＮに大きな波紋を呼び起している。

Open University，Brain Research Group の意見の大要を紹介すると次の様である。

NATO が最近多くの分野に手を伸ばし活動をしているが，NATO 本来の任務は軍事機構にあることを忘れてはならない。その軍事機構が前記の如き科学会議に対して資金援助をすることによって討論内容が軍事目的に利用されないだろうか，また，何物にも拘束されないで自由な科学討論が会議でなされるであろうか，更に，軍事機構が援助をする動機と意図は何んであろうか。

こういう疑問を提示して，次の4点を列挙している。

1. 生化学レベルでの神経系の作用様式についての研究，特にシナプスと，シナプス関連の薬理学は化学兵器として開発できる可能性の為に，過去20年以上もアメリカ，イギリス，西独，オーストラリア，カナダ，疑いもなくソ連でも，軍事機構から研究費が供給されていた。
2. 軍事機構から出ている研究費は，軍事目的の為に与えられているのであって，研究者が全く違った意味で研究費を受けていても，Defence Department は研究者に彼等の考えている軍事目的は明しはしないだろう。
3. ソ連，東欧諸国，キューバ，ベトナム民主主義人民共和国の科学者が出席できそうもないからNATO Summer school のFree Communication は本当の Free Communicationとはならない。
4. NATO 条約の条項に〝文化的〟役割を揚げているが，どちらにしても，科学尊重という口実が，才1義的な軍事機構を適法化させてしまうことを考慮しなければならない。

以上の様な理由を挙げて，Advanced Study Institute がNATO から資金援助を受けることに反対している。これに対して今回の会長である Moore（St.Louis）は次の様に述べている。

自分は軍事目的を持っているような機関から援助をもらうのには反対である。しかし，NATO の条項や，利用方法によると，会議内容や，会議への招待者については何の制約もしていない。更に学会を援助してくれる NATO Scientific Affairs Divisions は，この学会独自の刊行物を出版することを強く要求しているし，また強く主張もしている。

同じ課題でもって開かれているＩＳＮや他の学会での討議内容が軍事利用されるのだろうか？神経系の蛋白質についての会議内容が，誰も軍事目的であるとは考えないであろう。

学会に関する通知は2ヶ月も前に出してあったが，NATO に関係あるなしにかかわらず多くの国から申し込みが来ていた。参加〆切の10日前になって，Open University の Groupは，反対の手紙を送って来た。これでは問題を提起されても回答するには時間がないし，組織委員や参加予定者に対して公正を欠いている。

更に重大なことはＩＳＮの会員にも，彼等が手紙を送って，次のＩＳＮで問題を提起するといっているが，これはＩＳＮにとって悪いことになるかもしれない。

以上の様に Moore は，NATOの援助というのが，決して軍事目的によっているのではないし，また会議への参加者を規制していないから，NATO から援助を受けても問題は何も無いと考えている。会議の内容が軍事目的に利用されるという点に関しては，ＩＳＮや他学会と同じ様な形式で開らか

れる以上，軍事利用になり得ないと反論している。更に，Open University Groupの非紳士的態度を非難し，このようなことでＩＳＮに悪影響を及ぼすであろうと警告している。

Newcastleの Piero P. Giorgiは，Open University のGroup の問題提起に対して，Nature 238 57 (1972)に，Advanced Study Institute に過去２回出席した時の様子を数字を挙げ東欧圏からの参加者があったことを示している。しかし，その中で，会議の内容が軍事利用になり得るかどうかという問題について，Giorgiは他の学会と同様に直接軍事利用になり得ないが，歴史が示すように，科学の成果というものは多少形を変えて〝悪用〟されている。更にNATO のこのような科学への援助は社会的品位を得ようとする巧妙な手口であると指摘しているOpen University のGroupの意見を支持している。又，Strasbourgの Ian G. MorganもNature 238 235 (1972)に Open Universityの Groupの意見を強く支持する一文を書いており，語調を強めて，NATO の代表者であり，現にベトナムで戦争をしているアメリカが問題であると云っている。

以上のような論議をみると数年前日本で起った米軍の研究費援助をめぐる問題を想起させられる。研究費をもらうべきでないとした意見は，Open University の Group の意見と同じものであり，もらっていた人達はMoore の意見と同じ様であったことを記憶している。

軍事目的や軍事に利用出来る物を研究する為，軍事機構から研究費の援助をもらって研究しようとする科学者は誰一人としていないだろうが，現実問題として，研究費不足は軍事機構からの研究費にも不本意であっても魅力を感じないわけには行かなかったであろう。軍事研究云々を論ずる前に先づ戦争をやめさせるべきであり，日本においても今やＧＮＰ世界オ２位の平和国家であるからにはもっと学問，研究の資金が充分満されるような方策がとられてよいと思う。これには，研究者も象牙塔にとじこもって社会問題に無関心でいるような状態から脱皮して，研究者自身もっと努力する必要があろう。

最後にＩＳＮの東京大会では論議すべきものは充分論じあってよいが，しかし，学会本来の目的を充分に認識して成功裡に終ることを期待したい。

（慶大・医・生理　須田治彦）

## 2. 理事選挙のお知らせ （公示）

日本神経化学会々則に従い本年理事の改選を郵便投票により行います。

選挙日程は下記の通りです。

日本神経化学会事務局報別冊の会員名簿をもって選挙人名簿といたします。（但し，昭和47年６月30日までに入会された方）

会員各位のご協力をお願い致します。

昭和47年９月

日本神経化学会
選挙管理委員会

（理事選挙日程）

| | |
|---|---|
| ９月下旬 | 選挙人名簿の会員への送付<br>理事候補者の推せん及び選挙人異議申請の受付は10月20日(金)締切 |
| 10月21日(土) | 選挙管理委員会 |
| 11月上旬 | 投票用紙，理事候補者名簿の送付 |
| 12月７日(木) | 投票締切　郵送により事務局到着のもの |
| 12月９日(土) | 正午開票　（12名理事決定） |

## 3. 理事候補者の推せんについて(依頼)

昭和47年11月に理事の改選が行われます。現評議員は理事候補者になりますが，その他の方でも会員2名以上からの推せんがあれば候補者として登録されますので適任者があれば事務局まで文書で申請して下さい。

## 4. 理事会議事録

昭和47年度 才1回日本神経化学会理事会議事録

昭和47年2月5日(土)
於 東京

出席者：(理事) 柿本泰男，高坂睦年，黒川正則，永田 豊，成瀬 浩，佐野 勇，佐武 明，高垣玄吉郎，高橋良，塚田裕三，植村慶一，吉田 博，中嶋照夫(世話人代表)

欠席者：早石 修，台 弘

1. 才15回日本神経化学会開催について

今年度は，大阪地区で阪大医学部高次研・中嶋照夫氏を世話人代表として，阪大高次研のスタッフが中心となって昭和47年11月1日(水)，2日(木)の2日間，阪大医学部附属病院講堂で開催されることとなった。

応募演題の〆切は8月10日(木)事務局必着とし，8月26日(土)大阪に於て応募論文の審査会を開催することにした。

又プログラム編成のための専門委員として下記9氏を委嘱することに決定した。

林 浩平(群大・医・生化)
垣内史郎(大阪府立中宮病院)
栗原 正(新大・脳研)
栗山欣弥(京都府医大・薬理)
中嶋照夫(阪大・医・高次研)
西塚泰美(神戸大・医・生化)
奥山典生(東京都立大・理・化)
嶋津 孝(阪大・医・解剖)
武富 保(信大・医・順応研)

尚，前夜祭については世話人会に一任することとし，懇親会はおこなわないこととした。

2. 佐武理事より昨年度(才14回)神経化学の抄録集が出されているものを「神経化学」Vol.10. 1972年号とすれば，引用文献として利用するのに都合がよく，また「神経化学」として連続することとなる故，才14回分の表紙カバーを作り配布することとした。

3. 理事の1人より評議員の推薦があったが，任期途中なので次回評議員改選期に考慮することにした。

4. 江副監事の死去により台 弘理事を監事とすることとし，理事1名は欠員のままとすることとした。

5. 才4回国際神経化学会会議についての報告について

1973年8月26日より31日迄東京で開催される予定の才4回国際神経化学会議のAnnouncementその他の進行状態について塚田会長より説明，報告がなされた。

昭和47年度 才2回日本神経化学会理事会議事録

昭和47年8月26日(土)
於 大阪大学医学部

出席者(理事) 柿本泰男，高坂睦年，黒川正則，佐野 勇，佐武 明，高垣玄吉郎，高橋 良，塚田裕三，植村慶一，吉田 博
(監事) 高橋康夫
(世話人代表) 中嶋照夫
(プログラム編成専門委員)栗原正，西塚泰美，奥山典生，嶋津孝，武富保，林浩平，

欠席者(理事) 早石修，永田豊，成瀬浩，山川民夫
(監事) 台 弘
(プログラム編成専門委員) 栗山欣弥

議 事

1. 庶務会計中間報告

昭和46年9月1日～昭和47年7月31日までの決算中間報告があり，了承された。

2. 理事選挙(改選)の件

今年末で2年の任期満了に伴い，昭和47年12

月に会則にのっとって理事の選挙をおこなうこととなった。選挙管理委員は下記4氏に委嘱することとなった。

仮屋哲彦（東医歯大・医・精神）
加藤尚彦（東大・脳研・生化）
松谷天星丸（脳麻研・生化）
野口鉄也（慶大・医・生理）

理事選日程（昭和48年－50年）

| | |
|---|---|
| 9月上旬 | 選挙管理委員の委嘱，委員会の発足 |
| 9月上旬 | 選挙公示と選挙人名簿の会員への送付（昭和47年6月末日までの入会者）理事候補者の推せん及び選挙人異議申請は10月20日（金）締切 |
| 10月21日(土) | 午後1時半より選挙管理委員会 |
| 11月上旬 | 投票用紙，理事候補者名簿の送付 |
| 12月7日(木) | 投票〆切，　郵送により事務局到着のもの |
| 12月9日(土) | 正午開票　（12名理事決定） |

3. 才15回日本神経化学会開催の件

今年度学会は中嶋照夫氏（阪大•医•高次研）が世話人となって11月1日(水)，11月2日(木)の両日大阪大学医学部講堂で開催することとなった。尚，理事会は11月1日(水)昼に，評議員会は11月2日(木)昼に，総会は11月2日午後1時30分より2時まで開催することとした。

今年度は，学会前日（10月31日）夜，前夜祭「精神神経疾患への生化学的アプローチ」と題して行うこととなった。

講師として，佐野勇氏（阪大・医・高次研），塚田裕三氏（慶大・医・生理），台　弘氏（東大・医・精神），谷向弘氏（阪大・医・神経）の諸氏がえらばれ，大阪大学医学部講堂で開催される。

4. 才15回日本神経化学会プログラム編成

応募論文総数39編につき，慎重審議の結果，4編を研究の意図や方法について疑問が多い。予備実験の段階でデーターが不足である，又論文に漸新な点がなく充分な討論が期待されないなどの点で不採用とすることを決定した。したがって残り35編についてプログラムを編成し，9月中旬には印刷して全会員に郵送されることとなる。

5. 次期（昭和48年）開催地および世話人

来年度は国際神経化学会議が東京で開かれるが，それに続いて時期を多少ずらして開催することが確認された。次期開催地は東京とし，東邦大〔平野修助氏（東邦大・医・II生理）〕を中心に会を構成することが了承された。尚期日は，昭和48年11月30日(金)，12月1日(土)の両日が予定される。

6. 才4回国際神経化学会議（東京）について

才4回国際神経化学会議組織委員長塚田裕三氏より会議準備状況の報告があった。

7. その他

林浩平氏（プログラム編成専門委員）より，従来より行なわれている応募論文の採否制度について発言があり，会場を増して応募論文全てを学会発表させる方がよいのではないかとの意見が出された。又西塚泰美氏（同）は応募論文の採否の判定の基準につき発言があり，学会演題としての適否を論ずるのか或いは研究の論文として適否判定するのかの疑問点が出された。

この件については今年末の理事選後，新理事会によって審議することとした。

# 5. 第15回日本神経化学会プログラム

＜世話人代表＞ 中 嶋 照 夫
＜日 時＞ 昭和47年11月1日(水)・2日(木)
午前9時より
＜会 場＞ 大阪大学医学部附属病院第1講堂

## 前 夜 祭

と き ： 昭和47年10月31日(火)午後5時～8時
ところ ： 大阪大学附属病院講堂(診療棟7階)

**精神神経疾患と神経化学**

司 会 須田正己(阪大・蛋白研)
高橋 良(長崎大・医・精神)

1. 精神神経疾患への生化学的アプローチ……佐野 勇(阪大・医・高次研)
2. 情動と生体リズムと記憶 ……台 弘(東大・医・精神)
3. 神経化学から臨床精神薬理学へ ……谷向 弘(阪大・医・精神)
4. 応用神経化学 ……塚田裕三(慶大・医・生理)

## 第 1 日 11月 1 日(水)

口演時間10分・討論時間10分

**9：00 ～ 10：40**

1. ドーパ脱炭酸酵素阻害剤RO4-4602によるアミノ酸尿
……田中千賀子・大隅義継・堀井郁夫・高折修三(京大・医・薬理)
2. 血清トリプトファン水準の脳各部位のトリプトファン及び5HT濃度，アミノ酸バランスに及ぼす影響
……渡辺昌祐・中島良彦・河野沢与・江原 嵩・井口欽也・田口冠蔵・大月三郎(岡大・医・精神)
3. 断眠後睡眠時のラット脳内 $^{3}$H-Tryptophan 代謝
……渋谷治雄・融 道男・島薗安雄(東医歯大・医・神経)
4. アミンプレカーサー投与による猿脳内アミン代謝の研究
……岸本英爾・永井克子・塚田裕三(慶大・医・生理)
5. Dopamine $\beta$-Hydroxylase 阻害と脳内アミン ……日高弘義(愛知県コロニー)

**休 憩 (10分)**

**10：50 ～ 12：10**

6. 化学伝達物質受容部位に関する研究(その1) Acetylcholine 及びその近縁物質による大脳シナプス膜のコンフォーメーション変化 ……関谷 真・菊野正隆(上智大・理工・生化)
7. 向精神薬の神経終末顆粒への特異的結合の様式について…石谷良一(千大・薬・微生物薬品化学)
8. ラット脳の AMP Deaminaseの活性調節について
……小笠原信明・渡辺智正・後藤治子(愛知県コロニー) 吉野昌孝(名大・医・II生化)
9. 脳 $Na^{+}$・$K^{+}$-ATPase に対する $\alpha$-Tocopherol の効果
……川井紘一・原 諭吉・中尾 真(東医歯大・医・生化)

**12：10 ～ 13：10 昼 食(理事会)**

13：10～14：50

10. 発育に伴うラット大脳DNA分解酵素の変動について
……野口鉄也・須田治彦・塚田裕三（慶大・医・生理）

11. 発育に伴うラット大脳DNA依存性DNA合成酵素の変動について
須田治彦・野口鉄也・塚田裕三（慶大・医・生理）

12. 発育期ラット脳のチミジンヌクレオチドのDNA代謝に及ぼす甲状腺摘除の影響
……山上　栄・切池信夫・川北幸男（阪市大・医・神経精神）

13. MAM 投与によるラット胎仔脳内 Lysosomal Enzymes の変動
……松谷天星丸・塚田裕三（脳麻研・生化）松山春郎・高屋豪瑩（脳麻研・病理）

14. 分離ニューロンおよびグリア細胞群の発育段階における生化学的研究
……永田　豊・御子柴克彦・塚田裕三（慶大・医・生理）

休　憩（10分）

15：00～16：55

15. 脳の Acetylcholinesterase Isozyme について……小林清史・森昭胤・高坂睦年（岡大・医・脳研・病生化）

16. 培養神経組織でのミエリン形成と 2′,3′-Cyclic Nucleotide 3′-Phosphohydrolase（CNP）活性
塚田裕三・渋谷万里子（慶大・医・生理）小川恵弘（脳麻研・病理）

17. 2′, 3′-Cyclic Nucleotide 3′-Phosphohydrolase の pH stat および比色による測定法
……栗原　正・高橋康夫（新大・脳研・神経薬理）

18. 発育期の実験的高フェニールアラニン血症と［$^{35}$S］Sulfate の脳組織 Sulfatide への Incorporation について　……戸張千年・植村慶一・平野修助（東邦大・医・II生理）

19. 実験的 Anoxia に於ける脳蛋白合成並びに脳内遊離アミノ酸パターン
……高田五郎・多田啓也（阪市大・医・小児）

20. ウロカネース欠乏症（Urocanase Deficiency）（5分）
……吉田稔男・荒川雅男（東北大・医・小児）多田啓也（阪市大・医・小児）

## 第２日　11月２日（木）

9：00～10：40

21. ヒト脳セレブロシドオキシ酸組成に関する 2, 3 の新しい知見
……河村成子・武富　保（信大・医・順応研・生化）

22. ハイプシン，$N^6$-（4-アミノ-2-ヒドロキシブチル）-2, 6-ジアミノカプロン酸の発見
中嶋照夫・今岡信夫・柿本泰男・佐野　勇（阪大・医・高次研）

23. 脳内のメチル化蛋白質　……柿本泰男・三宅正治（阪大・医・高次研）

24. 脳のA1蛋白およびヒストンのメチル化酵素について　……三宅正治（阪大・医・高次研）

25. モルモット脳の細胞核の酸性蛋白群について
……植村慶一・佐瀬厚子・平野修助（東邦大・医・II生理）中山　毅（東邦大・医・II外）

休　憩（10分）

10：50～12：10

26. 人脳 S-100 蛋白の分離，アミノ酸分析及び Radioimmunoassay について
……魚住　徹（阪大・医・脳外）Robert J. Ryan（Mayo Clinic）

27. Neurotuble Protein の Polymer と Colchicine の結合 ……新井孝夫・奥山典生（都立大・理・化）

28. 蛙の坐骨神経における軸索流－特に温度依存性について
……阿部輝雄・芳賀達也・黒川正則（東大・医・脳研）

29. ラット坐骨神経系の in vitro におけるロイシン輸送……山口　仁・内藤利勝（昭和大・医・神経）

12：10～13：30　　昼　　食（評議員会）

13：30～14：00　　総　　会　〔議題：1. 庶務会計報告　2. プログラム編成報告　3. 理事改選の件　4. 次期学会世話人および開催地の件　5. 第4回国際神経化学会の件報告　6. その他〕

14：00～16：30

30. 脳細胞膜の脱分極と Cyclic AMP の形成Ⅱ：Pulse-Labeling法と総 cAMP定量との比較
……清水宏俊（日本ロシュ）岡山　博・田中正三（熊大・医・Ⅰ薬理）

31. 脳の Cyclic 3′, 5′-Nucleotide Phosphodiesterase, V. Cyclic AMP と Cyclic GMP の水解とカルシウムの影響について……垣内史朗・山崎礼子・手島佳子（大阪府立中宮病院）

32. モルヒネの長期間連続投与時における脳内 Cyclic AMP 代謝の変動について
……内藤勝己・中川一夫・木村　宏・栗山欣弥（京府医大・薬理）

33. ウシ脳からの 3′, 5′-Cyclic AMP依存性蛋白燐酸化酵素の精製と基質蛋白による活性化
……宮本英七（大阪府立中宮病院）　P. Greengard（Yale 大学・薬理）

34. 中枢神経組織における Cyclic AMP依存性蛋白質燐酸化酵素とその機能
……井上善英・山村博平・西山　馨・松村末夫・公文　明・西塚泰美（神大・医・Ⅱ生化）

35. 自律神経による肝 Phosphorylase 活性化の機序について
……嶋津　孝（阪大・医・解剖）天川　葵（園田学園女子大）

総括討論（30分）

## 6.　オ4回　国際神経化学会議について

下記の要領で1973年8月26日より8月31日迄，東京に於てオ4回国際神経化学会議が開かれます。

1. 会場：日本都市センター

| 日程 | Date | Forenoon | Afternoon | Evening |
|---|---|---|---|---|
| | Aug. 26 (Sun) | — | Registration | Registration |
| | Aug. 27 (Mon) | Plenary Session and Scientific Programme | Scientific Programme | Reception |
| | Aug. 28 (Tue) | Scientific Programme | Scientific Programme | |
| | Aug. 29 (Wed) | Scientific Programme | Excursion | |
| | Aug. 30 (Thu) | Scientific Programme | Scientific Programme | Banquet |
| | Aug. 31 (Fri) | Scientific Programme | Scientific Programme and Farewell Party | |

2. シンポジウム

1. Disorders and allied conditions of CNS lipids
2. Transmitters and receptors.
3. Neurochemical aspects of drug dependence.
4. Neurochemistry at cellular level.
5. Perinatal neurochemistry
6. Proteins in nervous structures
7. Implication of 3′, 5′- nucleotides in neural function.
8. Regulation mechanism in CNS metabolism

Round Table Discussions ;

1. Molecular approaches to memory
2. Precursors of biogenic amines

3. 会　費

| | |
|---|---|
| ＩＳＮ会員 | １２,０００円 |
| 非　会　員 | １５,０００円 |
| 学生その他の同伴者 | ７,５００円 |

演題発表の申込みは，ＩSN－２nd Announcement に附いている用紙（Form A および Form B）に原稿をタイプして，会費を添えて1973年2月1日迄に事務局に申込み下さい。国内会員は早目にお申込み下さい。

特に以下の主題の研究発表を歓迎します。

1. CNS Proteins
2. Disorders in CNS Lipids
3. Biochemistry of Synaptic Events
4. Cellular Biochemistry of CNS
5. Brain Activities and the Biochemical Correlates
6. Neurochemical Aspects of Drug Action

演題発表は行わないが，会議に出席希望者は，Form A に記入の上，1973年3月15日迄に事務局に御申込み下さい。

演題申込み希望者あるいはその他の御問合せは下記事務局に御連絡下さい。

第４回国際神経化学会議事務局
東京都新宿区信濃町 35（〒160）
慶応義塾大学医学部生理学教室気付
電話　03－353－1211　内線 2613

## 7. 昭和４７年度日本神経化学会決算報告書及び昭和４８年度予算案

昭和 47 年度決算報告書　（昭和46年9月1日～昭和47年8月31日）

| 収　入 | |
|---|---|
| 一般会費 | 834,500 |
| 賛助会費 | 880,000 |
| 抄録集売上 | 328,600 |
| 掲載料 | 0 |
| 雑収入 | 17,820 |
| 小　計 | 2,060,920 |
| 前年度繰越金 | 1,250,222 |
| | 3,311,142 |

| 支　出 | |
|---|---|
| 人件費 | 369,860 |
| 事務局報編集印刷代 | 268,350 |
| 抄録印刷費 | 254,400 |
| 学会運営費 | 203,425 |
| 会議費 | 255,555 |
| 通信連絡費 | 142,058 |
| 備品費 | 22,900 |
| 事務雑費 | 23,697 |
| 小　計 | 1,540,245 |
| 次年度繰越金 | 1,770,897 |
| | 3,311,142 |

右承認する。

昭和47年9月5日

署名・印　高橋康夫

台弘

## 昭和48年度予算案　（昭和47年9月1日～48年8月31日）

| 収　入 | |
|---|---|
| 一般会費 | 800,000 |
| 賛助会費 | 800,000 |
| 抄録集売上 | 300,000 |
| 雑　収　入 | 10,000 |
| 小　計 | 1,910,000 |
| 前年度繰越金 | 1,770,897 |
| | 3,680,897 |

| 支　出 | |
|---|---|
| 人　件　費 | 450,000 |
| 事務局報編集印刷費 | 300,000 |
| 抄録印刷費 | 300,000 |
| 学会運営費 | 100,000 |
| 会　議　費（旅費を含む） | 300,000 |
| 通信連絡費 | 250,000 |
| 備　品　費 | 50,000 |
| 事務雑費 | 50,000 |
| 理事選挙費用（通信・印刷） | 300,000 |
| 小　計 | 2,100,000 |
| 次年度繰越金 | 1,580,897 |
| | 3,680,897 |

# 後　記

★　長い間，編集の労を担っていただいていた高垣玄吉郎氏が東京都神経科学総合研究所に移られ，現在編集に当られている永田豊氏が病気静養中の為，事務局報の発行が遅れ申し訳ありませんでした。

今後は年二回位発行するつもりですので会員諸氏からの建設的な御意見の投稿，トピックスの紹介など歓迎致します。本誌には須田治彦氏からの投稿を載せさせていただきました。

★　本年度日本神経化学会プログラム編成委員会が大阪で行なわれ，応募演題39の中，35演題が採用された。毎年のことながら，この時期になると，学会のあり方，抄録集の意義についての問題が委員の中から出される（理事会議事録参照）。学会員全員が，この問題について積極的にとりくまなければならないが，懇話会当時からひきつがれている活潑な討論はお祭り気分の学会の多い今日，極めて貴重なものであり，この特徴が失なわれないよう学会が運営されることを望むものである。

★　本誌に紹介されているようにNATO から資金の出ている〝Advanced Study Institute on Proteins of the nervous system〟が欧米の神経化学者の間で問題になっている。吾々も既に米軍資金問題で同じ課題について議論をしたことを想起する。この世の中から，戦争という殺人行為が無くなればこの問題の起りようがなくなるのではないだろうか。平和憲法をもつ唯一の国民として対岸の火事と見過さずに，もう一度世の中の動きに目をむける必要があるであろう。

（野口　鉄也）

## 内　容


1．NATO後援「Advanced Study Institute」をめぐる論事 …… 1

2．理事選挙の公示…… 2

3．理事候補者推せん依頼…… 3

4．昭和47年度理事会議事録…… 3

5．第15回　日本神経化学会プログラム(於大阪)…… 5

6．第４回　国際神経化学会議について…… 7

7．昭和47年度日本神経化学会決算書及び昭和48年度予算案…… 8

8．後記…… 10